

沖縄キリスト教学院大学FD委員会  
(編・著)

2013年度 前期

# 学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

2013

巻頭言  
2013年度 前期  
学生による授業評価

沖縄キリスト教学院大学  
学長 中原 俊明

- 1,本学院大の2013年度前期の学生による授業評価報告書がまとまり、こうして公刊される運びとなったが、そのために知恵とエネルギーと時間を惜しみなく提供された教員、事務職員の皆さんに深く感謝するものである。
- 2,評価対象とされたのは、84科目、116クラスであるが、それぞれ17の設問項目につき、学生たちが教師と自分自身を俎上にのせて、5段階評価したところを1-5点に換算して集約している。特徴的な部分をピックアップすると、第1に17項目中16項目が4以上という好結果にまず安堵する。Q1から10までは、学生が教師を評価する部分であるが、授業目的の明示、成績評価、授業への熱意、授業の分かりやすさなどで高い評価となっている。第2に、Q11-15は学生自身の自己評価の部分であるが、授業への熱意やシラバス参照などでは、比較的堅実さを印象づけられる反面、報告書で「由々しき問題」として指摘された項目として「予習復習時間」があり、より具体的には予習復習がほぼゼロから1時間程度という学生群が8割以上という実態の中に今後の課題がみえる。
- 3,自由記述による評価に関する冒頭の指摘は、注目に値する。つまり、アンケート本来の目的が授業改革であり、教員評価のためのアンケートではないこと、また誹謗中傷へ墮する危険への注意喚起なども適切といえる。
- 4,「授業の良い点」からいくつかを拾ってみる。ネイティブによる英語の有り難さ、多読による英文学習が効果的、少人数だからみんなとの距離が近くダイバートでの発言もやりやすかった、毎時間宿題が出され次の時間にその説明や質問できる態勢がよいこと、学生自身で詩や劇を作るので意欲とスキルアップに役立つ、米国文学作品と沖縄を結びつけるのが個性的で楽しい、就職の面接時での自己アピール方法など教えてもらい良かった、等など。他方、授業で改善してほしい点について「なし」が大多数であったが、僅かながら「授業への注文」ともいふべき記述として、例えば、説明が分かりにくい、工夫が足りない、教師の話が長すぎて最後にまとめる時間がなかった、話すスピードが早すぎる、等があった。
- 5,上記の反応の数々は、必ずや本学院大での教育のあり方をよりリッチにする方向で活かされていくであろうと、期待する。

沖縄キリスト教学院大学

FD委員会委員

(2013年度 前期)

中原 俊 明 (委員長・学長)

金 永 秀 (委員・人文学部長)

A. David Ulvog (委員・英語コミュニケーション学科長)

金城 繁 正 (委員・企画推進課課長代行)

執筆者

照 屋 信 治 (英語コミュニケーション学科 准教授)

沖縄キリスト教学院大学

2013年度 前期

学生による授業評価報告書

## 第1章

# 学生による授業評価概要

## はじめに

2013年7月に、学生による授業評価アンケートを実施した。すべての開講科目クラスを対象とした。ただし、卒業研究については集計から除外した。

全84科目、116クラスについて分析した。分析に投与された評価票は2865件であった。評価は5段階法を採用しており、1点が最低点、5点が最高点の5段階評価となっている。「1」～「5」を1点～5点に換算し、全データを一括して設問項目ごとに、平均値、標準偏差などの基本統計量を算出した。ついで評価段階ごとの人数の分布を調べた。結果は以下の表およびグラフに掲げた通りである。表中に欠損値（システム欠損値）とあるのは無回答者の数である。

### 1 学生による授業評価の概要

以下に、設問毎の平均値等を掲げる。

記述統計量<sup>a</sup>

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1 授業の目的	2861	1	5	4.69	.629
Q2 成績評価方法	2861	1	5	4.62	.699
Q3 の熱意	2862	1	5	4.73	.618
Q4 わかりやすい	2862	1	5	4.46	.902
Q5 準備よい	2862	1	5	4.65	.695
Q6 理解興味の工夫	2861	1	5	4.56	.806
Q7 時間どおり	2862	1	5	4.68	.703
Q8 質問の機会	2854	1	5	4.55	.798
Q9 授業妨害へ対処	2858	1	5	4.54	.767
Q10 薦めたい	2863	1	5	4.46	.916
Q11 熱意を持って参加	2859	1	5	4.48	.796
Q12 シラバス参考	2856	1	5	4.19	1.049
Q13 授業を中座しない	2862	1	5	4.50	.773
Q14 遅刻欠席ない	2849	1	5	4.42	.906
Q15 予習復習時間	2674	1	5	2.13	1.103
Q16 全体的評価	2791	0	5	4.24	1.050
Q17 別の科目も受講したい	2739	1	5	4.36	1.013
有効なケースの数(リストごと)					

全17項目中、16項目で4以上の結果である。これらの項目について、本学の教育は一応及第ということであろう。

「4」に満たなかった項目は、「予習復習時間」であった。

評価の散らばりの大きかった（1.000以上）、すなわち評価の個人差が大きい項目は、「シラバス参考」「予習復習時間」「全体的評価」「別の科目も受講したい」であった。

## 2 評価段階ごとの分析

評価ランク毎の度数分布を調べ、前節の結果分析をより精密に検討する。比率の表記は少数点第一位を四捨五入した形で示す。また、欠損値を除いた有効パーセントで示す。

Q1「授業の目的」（「学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました」）は、「5（非常にそう思う）」が76.4%、「4（そう思う）」が16.8%で、計93.2%と高評価をえている。授業の目的についてはシラバスにも記載はされているものの、教員は学生に対し、開講時に丁寧に説明を行い、周知徹底を図る必要がある。さらなる高い評価を得られるように努力してゆきたい。

Q2「成績評価の方法」（「宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました」）は、「5（非常にそう思う）」が72.7%、「4（そう思う）」が18.8%で、計91.5%と高評価をえている。十分な高評価とは言えるが、評価と指導は一体であるという観点からすると、「成績評価の方法」に十分に理解していない、あるいは不満を抱く学生が少数ながらいることにも注意を促さなくてはならない。当該講義において学生は何を求められているのかを理解しておくことは受講にあたっての前提である。Q1、Q2とは一体のものであり、学生への周知徹底を図りたい。

Q3の先生の授業への熱意に対する評価は、「5（非常にそう思う）」が80.1%、「4（そう思う）」が13.6%で、計93.7%と高評価をえている。前回調査同様に高い評価を本学学生は教員へ与えている。

Q4「授業のわかりやすさ」については、教員が学生のレベルに合わせた授業を展開できているかを知ることができる。「5（非常にそう思う）」が67.1%、「4（そう思う）」が17.0%で、計84.1%と高評価をえている。しかし、前回調査に比べて、「5」「4」ともに数値が低下しているのは懸念すべき点である。

Q5「準備がよい」については、教材研究や本時の計画がしっかりとてられていることを推測することができる。「5（非常にそう思う）」が75.8%、「4（そう思う）」が15.5%で、計91.3%と高評価をえている。

Q6「理解興味の工夫」も、教材研究にかかわる評価項目である。「5（非常にそう思う）」が71.4%、「4（そう思う）」が17.1%で、計88.5%と高評価をえている。Q5とあわせて、学生は教員の努力を評価しているといえる。

Q7講義が「時間通りに始まり、時間通りに終わる」というのは、教員の授業開始の遅れ・遅刻や、計画性の不十分さによる講義の延長などが無いかを推測することができる評価項目である。「5（非常にそう思う）」が78.0%、「4（そう思う）」が13.8%で、計91.8%と高評価をえている。この項目については特に大きな問題を読み取ることとはできない。

Q8「質問の機会」があるかどうかについては、学生が授業に主体的に参加することを保証しているかを推測することができる質問項目である。特に大人数の学生が受講する講義などでは、質問カードの使用などの工夫が求められる。「5（非常にそう思う）」

が70.5%、「4（そう思う）」が17.1%で、計87.6%と高評価をえている。

Q9「授業妨害への対処」（「先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話くメールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました」）については、教員のクラス管理を問う問題である。「5（非常にそう思う）」が68.0%、「4（そう思う）」が19.7%で、計87.7%と高評価をえている。しかし、教授会などでは、学生の居眠り・私語がたびたび話題となっていることと考え合わせると、さらなる努力が必要であるといえよう。

Q10「薦めたい」（「私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい」）とは、授業の満足度の一端を示すものである。「5（非常にそう思う）」が67.9%、「4（そう思う）」が16.7%で、計84.6%と高評価をえている。しかし、昨年度の計90.0%からかなり低下しており、懸念すべき点である。

Q11からQ15は、学生自身の自己評価項目である。

Q11は、学生自身の「授業への熱意」を自己評価したものである。「5（非常にそう思う）」が64.6%、「4（そう思う）」が21.2%で、計85.8%と高評価をえている。

Q12「シラバス参考にした」は、「5（非常にそう思う）」が53.6%、「4（そう思う）」が21.2%で、計74.8%となっている。他の評価項目に比して低い数値となっている。事前にシラバスを熟読して参加していない学生が、4分の1近くいるという事態を考えれば、開講時に、Q1、Q2 の評価項目の授業の目標、評価方法の周知徹底が必要であるといえよう。

Q13「授業を中座しない」、Q14「遅刻欠席はない」、Q15「予習復習時間」は学生自身の「受講態度の自己評価」項目となっている。

Q13「授業中中座しない」（「私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした」）は、学生自身の授業規律の自覚を問うている評価項目である。「5（非常にそう思う）」が65.1%、「4（そう思う）」が21.7%で、計86.8%となっている。一見して高評価のようにも見えるが、15%近くの学生が、私語・メール・中座などを行っているというデータは、Q9の教師による「授業妨害への対応」、Q11の学生自身の「授業への熱意」の数字とクロス分析して、問題点を析出する必要を感じる。

Q14「遅刻欠席はない」によって、授業への「まじめな取り組み」ないし、学ぶことの本気度が推測できるだろう。「5（非常にそう思う）」が63.9%、「4（そう思う）」が19.1%で、計83.0%となっている。特に遅刻に関しては、教員からの注意喚起で容易に改善できるものである。さらなる努力が求められているといえよう。

Q15「予習復習時間」（「この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました」）では、学生の授業への取り組み度合いが推測できる。「5」（3時間以上）が3.8%、「4」（2時間くらい）が6.4%、「3」（1時間くらい）が21.7%、「2」（30分くらい）が28.0%、「1」（ほとんどしなかった）が33.4%であった。3分の1の学生がほとんど予習復習を行わず、30分以下の学生（「2」「1」）をあわ

せて) が 61.4%であるとはゆゆしい事態である。英語の習得がカリキュラムの中心である本学であるが、このような予習復習時間で語学習得が可能であろうか。Q11の学生自身の「授業への熱意」を自己評価が「5」「4」の合計で 85.8%であったが、自己評価と実際の努力の間に隔たりがあるように見受けられる。

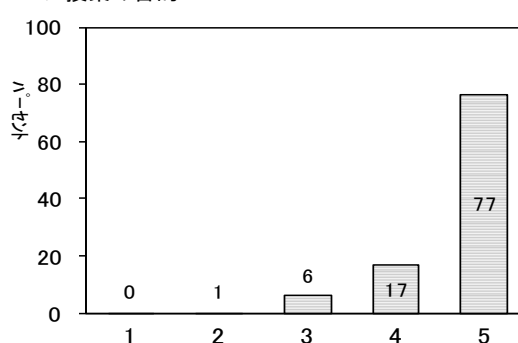
Q16「全体的評価」については、総合的な印象評価である。「5(非常にそう思う)」が 53.3%、「4(そう思う)」が 23.9%で、計 77.2%となっている。「1」「2」の合計が 5.4%であった。前回調査に比べて、「1」「2」の合計の比率が高くなっている。

Q17「この先生の別の科目も受講したい」という評価項目は、受講科目の授業が今後の授業に波及する効果を示唆するものであろう。今回の授業に満足度が高ければ他の科目への誘いとなろう。「5(非常にそう思う)」が 61.2%、「4(そう思う)」が 16.8%で、計 78.0%となっている。8割近い学生がこの科目の担当者の授業に興味関心を持ったであろうことがうかがえる。

Q1授業の目的

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	8	.3	.3	.3
2	13	.5	.5	.8
3	171	6.0	6.0	6.8
4	481	16.8	16.8	23.6
5	2188	76.4	76.5	100.1
合計	2861	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.1		
合計	2865	100.0		

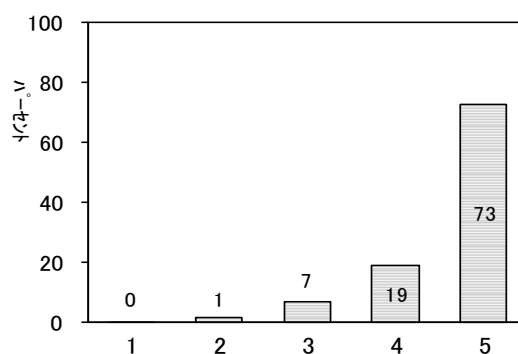
Q1授業の目的



Q2成績評価方法

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	10	.3	.3	.3
2	37	1.3	1.3	1.6
3	192	6.7	6.7	8.3
4	538	18.8	18.8	27.1
5	2084	72.7	72.8	100.0
合計	2861	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.1		
合計	2865	100.0		

Q2成績評価方法

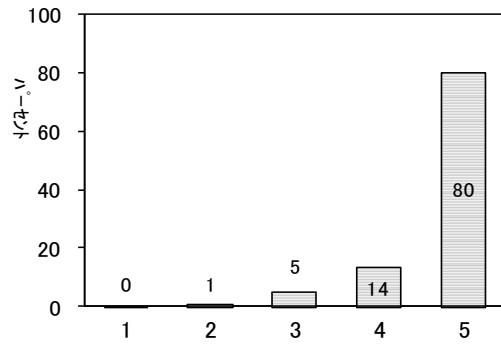




Q3先生の熱意

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	9	.3	.3	.3
	2	20	.7	.7	1.0
	3	148	5.2	5.2	6.2
	4	391	13.6	13.7	19.9
	5	2294	80.1	80.2	100.1
	合計	2862	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
	合計	2865	100.0		

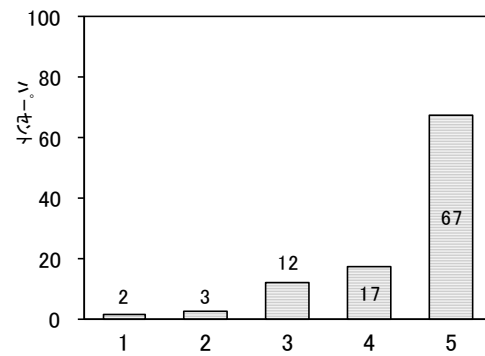
Q3先生の熱意



Q4わかりやすい

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	43	1.5	1.5	1.5
	2	71	2.5	2.5	4.0
	3	338	11.8	11.8	15.8
	4	488	17.0	17.1	32.9
	5	1922	67.1	67.2	100.1
	合計	2862	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
	合計	2865	100.0		

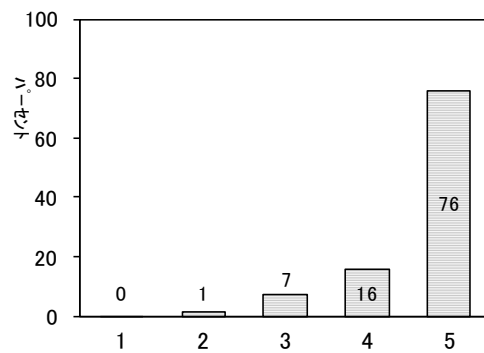
Q4わかりやすい



Q5準備よい

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	11	.4	.4	.4
	2	32	1.1	1.1	1.5
	3	204	7.1	7.1	8.6
	4	444	15.5	15.5	24.1
	5	2171	75.8	75.9	100.0
	合計	2862	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
	合計	2865	100.0		

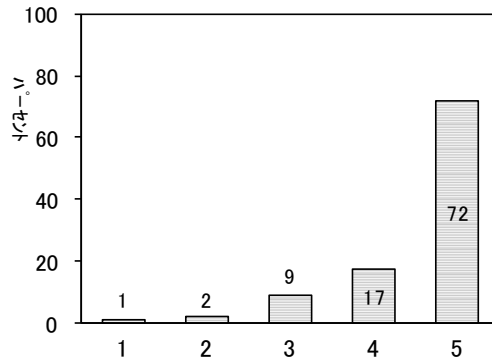
Q5準備よい



Q6理解興味の工夫

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	30	1.0	1.0	1.0
	2	51	1.8	1.8	2.8
	3	243	8.5	8.5	11.3
	4	491	17.1	17.2	28.5
	5	2046	71.4	71.5	100.0
	合計	2861	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	.1		
	合計	2865	100.0		

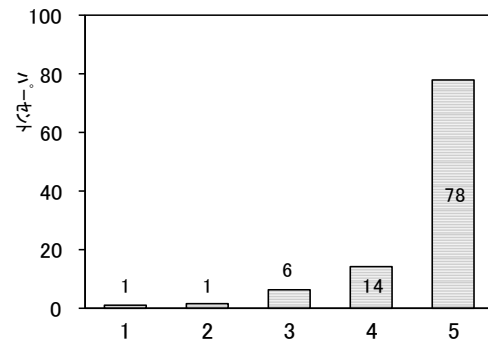
Q6理解興味の工夫



Q7時間どおり

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	19	.7	.7	.7
2	33	1.2	1.2	1.9
3	180	6.3	6.3	8.2
4	395	13.8	13.8	22.0
5	2235	78.0	78.1	100.1
合計	2862	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	.1		
合計	2865	100.0		

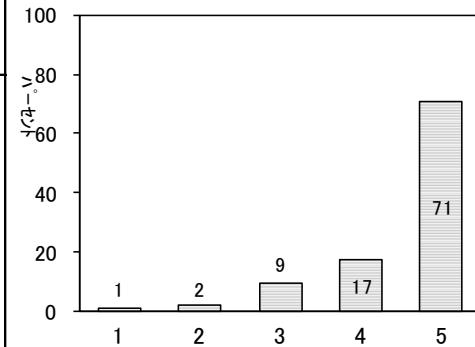
Q7時間どおり



Q8質問の機会

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	21	.7	.7	.7
2	54	1.9	1.9	2.6
3	268	9.4	9.4	12.0
4	491	17.1	17.2	29.2
5	2020	70.5	70.6	99.8
合計	2854	99.6	99.7	
欠損値 システム欠損値	11	.4		
合計	2865	100.0		

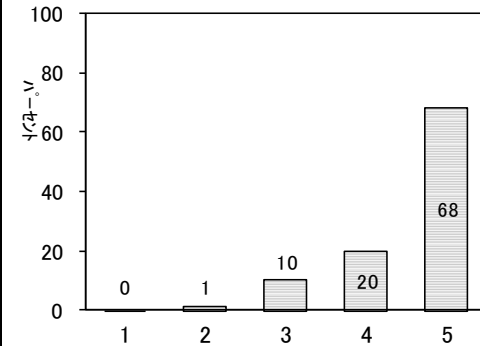
Q8質問の機会



Q9授業妨害へ対処

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	12	.4	.4	.4
2	39	1.4	1.4	1.8
3	296	10.3	10.3	12.1
4	563	19.7	19.7	31.8
5	1948	68.0	68.1	99.9
合計	2858	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	2865	100.0		

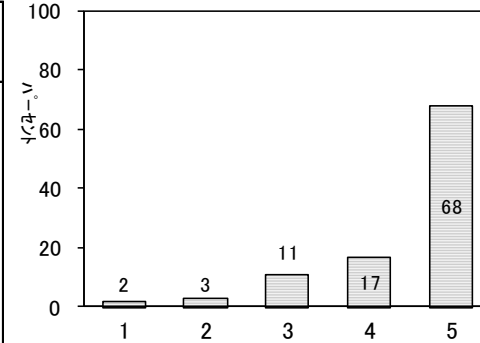
Q9授業妨害へ対処



Q10薦めたい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	51	1.8	1.8	1.8
2	75	2.6	2.6	4.4
3	313	10.9	10.9	15.3
4	478	16.7	16.7	32.0
5	1946	67.9	68.0	100.0
合計	2863	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	2	.1		
合計	2865	100.0		

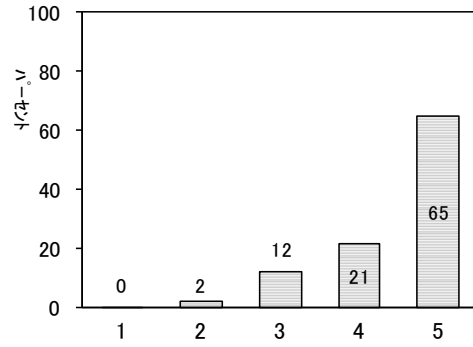
Q10薦めたい



Q11熱意を持って参加

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	11	.4	.4	.4
2	47	1.6	1.6	2.0
3	341	11.9	11.9	13.9
4	608	21.2	21.2	35.1
5	1852	64.6	64.7	99.8
合計	2859	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	2865	100.0		

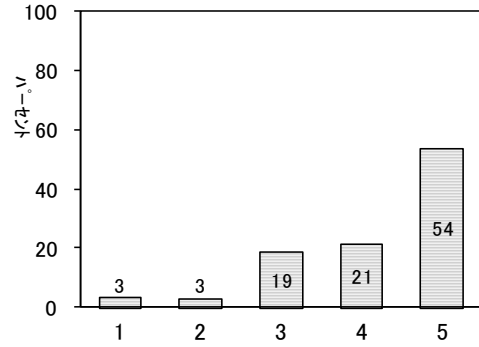
Q11熱意を持って参加



Q12シラバス参考

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	91	3.2	3.2	3.2
2	89	3.1	3.1	6.3
3	534	18.6	18.7	25.0
4	606	21.2	21.2	46.2
5	1536	53.6	53.7	99.9
合計	2856	99.7	99.8	
欠損値 システム欠損値	9	.3		
合計	2865	100.0		

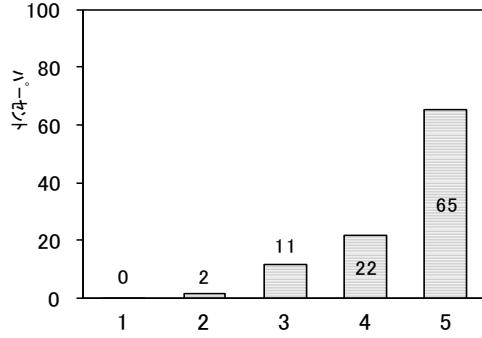
Q12シラバス参考



Q13授業を中座しない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	8	.3	.3	.3
2	42	1.5	1.5	1.8
3	324	11.3	11.3	13.1
4	622	21.7	21.7	34.8
5	1866	65.1	65.2	100.0
合計	2862	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	.1		
合計	2865	100.0		

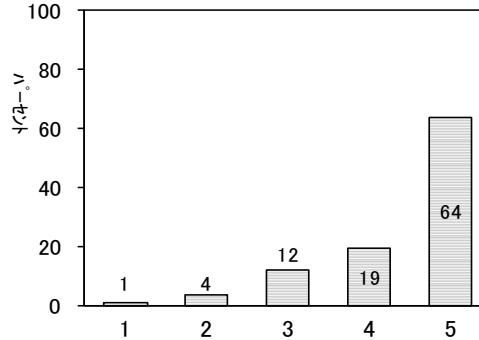
Q13授業を中座しない



Q14遅刻欠席ない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	29	1.0	1.0	1.0
2	103	3.6	3.6	4.6
3	339	11.8	11.8	16.4
4	548	19.1	19.1	35.5
5	1830	63.9	63.9	99.4
合計	2849	99.4	99.5	
欠損値 システム欠損値	16	.6		
合計	2865	100.0		

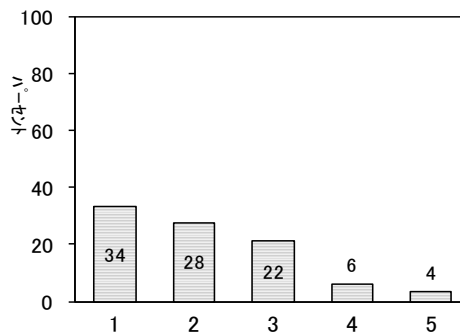
Q14遅刻欠席ない



Q15予習復習時間

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	958	33.4	33.5	33.5
2	802	28.0	28.0	61.5
3	621	21.7	21.7	83.2
4	183	6.4	6.4	89.6
5	110	3.8	3.8	93.4
合計	2674	93.3	93.4	
欠損値 システム欠損値	191	6.7		
合計	2865	100.0		

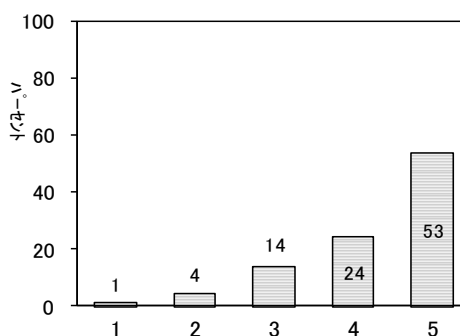
Q15予習復習時間



Q16全体的評価

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 0	34	1.2	1.2	1.2
1	30	1.0	1.0	2.2
2	126	4.4	4.4	6.6
3	390	13.6	13.6	20.2
4	685	23.9	23.9	44.1
5	1526	53.3	53.3	97.4
合計	2791	97.4	97.5	
欠損値 システム欠損値	74	2.6		
合計	2865	100.0		

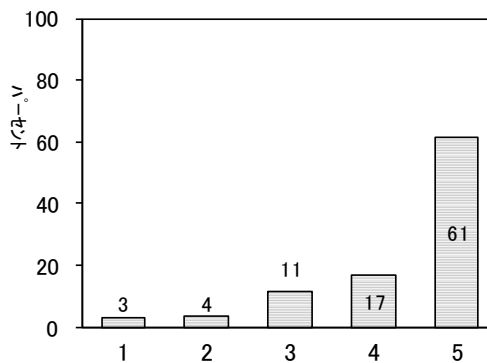
Q16全体的評価



Q17別の科目も受講したい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	76	2.7	2.7	2.7
2	102	3.6	3.6	6.3
3	326	11.4	11.4	17.7
4	481	16.8	16.8	34.5
5	1754	61.2	61.3	95.8
合計	2739	95.6	95.7	
欠損値 システム欠損値	126	4.4		
合計	2865	100.0		

Q17別の科目も受講したい



### 3 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善してほしい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったことの3つの設問から構成されている。この授業評価の目的は、第一義的には、授業の改善の資料を得ることである。

自由記述は、各教員へのコメントであり、それを全体として分析するのは困難を伴う。まずは、各教員が学生から得たコメントを検討し自らの授業改革の材料としてほしい。とはいえ、全体を概括することも意味がある。

まず、①授業の良い点、②改善してほしい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったことの3つの設問のうち、①授業の良い点の記述量が、②③を大きく上回っていることである。学生の各教員の授業への高評価を裏付けるものである。これらの記述は授業改善に取り組む各教員にとって大きな励ましとなろう。

しかし、前述のように授業評価の第一義的な目的は授業改革にある。「①授業の良い点」の記述に満足しているばかりではいけない。そのように考えるとき、①の記述量に比べて、②改善してほしい点の記述量が少ないことが挙げられる。これを、学生の授業満足度の高さにとらえることは早計であろう。逆に、授業改善への学生の主体的な参加の低さと見ることもできる。「特にナシ/とくになし」といった記述が目立つ。10分もの授業時間を割り、授業評価アンケートを実施しているのであるから、もっと充実した記述が期待できるはずである。

まず、学生より多くの具体的な授業改善案を得るためには、現行の授業評価アンケートシートの記述欄（63字）を大きくすることが必要であろう。また、授業評価アンケートの意義を学生たちに深く理解してもらう努力が教員側に必要である。授業評価アンケートは教員評価アンケートではないことをしっかりと理解してもらうべきである。逆に、誹謗中傷とも思えるようなコメントも見受けられた。「②改善してほしい点」に「つまらない。先生の1人ずつもう。授業をうけていて苦痛。」といったコメントを書かれても、教員はそれをうけて具体的にどのように改善すればよいのか戸惑うであろう。さらに、授業評価アンケートの質問項目の検討もすすめなくてはならない。記述欄の「4. 学長へ（聞いてほしいこと）」は不用であろう。授業評価アンケートを教員管理の手段としての側面を際立たせている。授業改善は創造的な営みであり、自己管理のもとになされるものである。

記述の内容は、授業の進め方、語りの早さ、テキスト、板書、宿題、評価、出席管理、プリントなど多岐にわたっている。そのひとつひとつに言及することはできないが、各教員がそれらのコメントを前向きに受け止め授業改善の材料としてもらいたい。

## おわりに

今回の授業評価アンケートの数値を、前回実施アンケートと比較すると、「Q4 わかりやすい」「Q6 理解興味の工夫」「Q8 質問の機会」「Q9 授業妨害への対応」「Q10 薦めたい」「Q11 熱意を持って参加」「Q12 シラバス参照」「Q13 授業を中座しない」「Q14 遅刻欠席ない」「Q16 全体的評価」「Q17 別の科目も受講したい」の質問項目で、「5」「4」の合計点が低下していることが指摘できる。前回実施アンケートで前々回実施アンケートの数値を大きく上回ったので、元に戻ったともいえなくもない。しかし、全教員がこのことを念頭に据え、授業改善に努めてほしい。

また、今回のアンケートからも分かるように、学生の「予習復習時間」の少なさはゆしき問題である。学生の中に、授業さえ出していれば学力は向上するとの誤解があるのではないか。特に語学学習において、自己学習時間の大切さは強調しすぎることはない（もちろん他の科目においても）。学生の「熱意をもって参加」したという高い数値と、「予習復習時間」の少なさをあわせて考えると、本学学生への指導課題が見えてくるといえよう。

## 学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月  
後期 1 月  
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

	評 価 欄
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5 4 3 2 1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5 4 3 2 1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5 4 3 2 1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5 4 3 2 1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5 4 3 2 1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5 4 3 2 1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5 4 3 2 1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5 4 3 2 1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話〈メールを含む〉・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5 4 3 2 1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5 4 3 2 1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5 4 3 2 1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5 4 3 2 1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5 4 3 2 1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5 4 3 2 1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。 5 (3 時間以上) 4 (2 時間ぐらい) 3 (1 時間ぐらい) 2 (30 分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)	
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。 5 秀 4 優 3 良 2 可 1 不可 0 わからない	
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5 4 3 2 1

科 目 名	クラス名 ( )			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
	女			
所属学科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入試区分	1 一般入試		2 推薦入試	
	3 A0 入試			

\* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

1. この授業のよい点
2. この授業に改善してほしい点
3. この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
4. 学長へ (聞いてほしいこと)

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点													
2. この授業に改善してほしい点													
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。													
4. 学長へ (聞いてほしいこと)													